

環境アセスは現地調査が始まっています

事業の内容が環境にどのような影響を及ぼすかについて、事前に調査、予測、評価を行う「環境アセス」ですが、現在「方法書」段階における現地調査が行われています。

現地調査は今年いっぱい続く予定で、その後「準備書」において調査結果が公表される予定です。
準備書が公表された段階で、説明会や意見の募集などが行われます。

上野地区に整備が計画されている廃棄物処理施設について

そもそもなぜ、ゴミ処理施設を新たに整備するの？当初の計画はどんな計画だったの？

上益城5町における一般廃棄物処理施設の老朽化に伴い、これまでごみ処理施設3か所、し尿処理施設2か所で行われていた一般廃棄物の処理を、上益城5町で構成する「上益城広域連合」が主体となり焼却施設・リサイクル施設・最終処分場・し尿処理場を一体的に整備する計画が進んでいました。(令和7年度運用開始予定)

計画に沿って、施設整備予定地の選定を終え、用地買収も一部を除きほぼ完了していましたが、主に熊本地震等による財政上の課題により、施設整備自体には着手できず計画は遅れていました。

なぜ計画の変更が検討されているの？

そのような中、民間事業者から熊本県に対して、一般廃棄物と産業廃棄物を一体的に処理する中間



御船町に計画されている施設とほぼ同規模の「三木クリーンセンター」

処理施設整備について相談があり、上益城5町の首長に対して県から紹介があったことなどから、従来の上益城広域連合主体の計画から、民間事業者主体の計画へと変更が検討されている段階です。

ヒヤリングが行われています！

廃棄物の処理に関しては、町民の生活に密着した重要な課題でもありますので、御船町議会としては、上益城広域連合、御船町執行部・民間事業者といった計画側との認識の確認、及び町内各種団体や一般町民から廃棄物処理施設に関する期待、不安、疑問等に関するヒヤリングを行ってきました。
今後、専門家に対するヒヤリングも予定しています。

ヒヤリングの内容は要約して、議会のホームページで公開されています。下記のQRコードからは是非ご覧ください



R5-10月10日



R5-11月14日

町、上益城広域連合、民間事業者に対するヒヤリング要約はこちら。(PDF)



R6-1月5日 R6-1月25日① R6-1月25日② R6-3月1日

町内各種団体・公募町民に対するヒヤリングはこちら (PDF)

第22号
令和6年
5月15日発行

ふく なが けい
福永啓の議会だより

発行者
御船町議会議員 福永啓
御船町御船1000-1



城山公園の桜

これから どうなるの？

現時点は、民間事業者主体の計画へ変更が検討されている段階です。

環境アセスの最終報告書である「評価書」が公表され、事業内容を上益城5町が適切であると認めた場合「立地協定」や、「環境保全協定」等を民間事業者と結ぶことになっています。

立地協定等が結ばれた時点で正式に「計画変更」となる予定です。

評価書(環境アセスの最終報告書)の公表時期については、令和7年度末あたりが想定されています。

議会の役割って何？

そもそも「地方自治」ってどういう仕組みになっているのでしょうか。

皆様の中には一番上に「国」があり、その下に「県」があり、その下に「町」があるといった、ピラミッドのような仕組みをイメージされる方もいらっしゃるでしょう。

しかし、実際の制度は全く異なります。

「国」と「県」や「町」といった地方自治体は、役割の異なる対等な別団体です。

国は本来果たすべき役割(全国的なルールや国際的なこと等)を重点的に負い、住民に身近な行政はできる限り「県」や「町」にゆだねることが基本となっています。

中でも「町」の役割は大きく、県の役割(①広域にわたるもの、②市町村に関する連絡調整に関するもの③その規模又は性質において一般の市町村が処理することが適当でないと認められるもの)以外の生活に密着した行政が「町」の役割となっています。

町には、町民皆様のためにいろんなことを出来る力があります！

そして、その町の「オーナー」は皆様「町民」です。

「地方自治」は「オーナー」である皆様の意思に基づいてなされなければなりません。

その意思を代表する機関こそが「議会」です。

議会活動を町民へ、 町民の声を町へ、

昨年議会では、若い方々を中心に約100名を超える方々から、議会活動などについてヒヤリングを行いました。

その中で、一番よく聞かれた意見が「そもそも、町議会が何をしているところかわからない」という意見でした。

議会では、本当に皆様の生活に密着した多くのことが決まっています。

その議会活動が皆様にあまり伝わっていない現状は議会として、そして1議員として反省しなければなりません。

この議会だよりが議会活動を伝える一助になればと思います。

加えて、多様な世代、性別、職種の方々から「町議会議員になってみたい」と思っていたように、議会のありかたに関する議会改革を進めることが喫緊の課題であると実感しています。



福永啓のホームページ「福永啓WEB」は日々更新しています。是非ご覧ください！

福永啓のホームページ「福永啓WEB」はこちら

<https://kei.mifunemachi.info/>



福永啓のyoutubeチャンネル

youtubeチャンネルを始めています！

特に、一般質問の動画は「1時間かかる動画を見るのはちょっとつらい」「興味のある話題だったらじっくり見たいけど…」などという声にお応えして、

- ・「予告編」
- ・「5分で一般質問」
- ・「ダイジェスト版」
- ・「本編」

の4本立て！でお送りしています！是非ご覧ください！

「福永啓のyoutubeチャンネル」はこちら



<https://www.youtube.com/@keifukunaga>

吉無田高原から見える夜景

御船町の人口が！増えている！！

御船町は近年人口減少傾向にありましたが、熊本地震の発生によりその減少傾向が加速しました。

熊本地震が起きた平成28年4月時点の人口は、17,576人でしたが、その後4年間で人口は16,878人と約4%、698人減少しました。

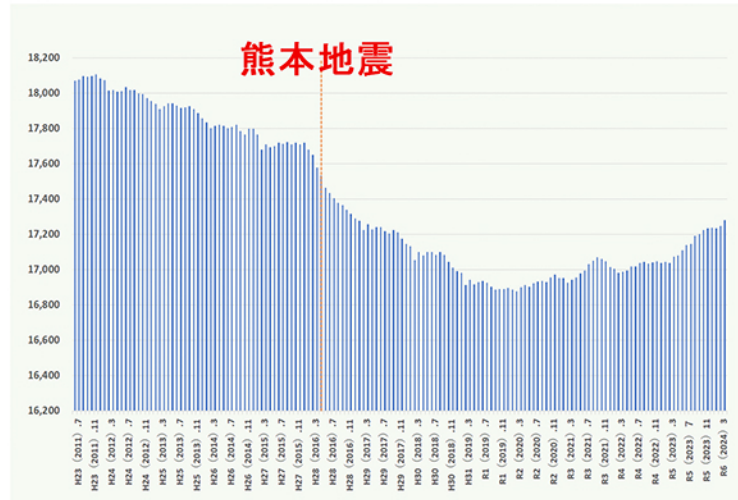
しかしその後、御船町の人口は回復の兆しを見せ、令和6年3月には17,282人、404人の増加となっています。

この間の増加率は約2.4%に相当し、前年同月比では県内で最も高い人口増加率となりました。

熊本地震以前の人口水準にはまだ達していないものの、熊本地震以前に人口が減少傾向にあった市町村において、熊本地震後に人口が増加傾向に転じた例は御船町以外にありません。

なぜ人口が増えているのでしょうか。

「御船町」人口推移(月別)



御船町では、年少人口の増加が顕著です。例えば、震災時に生まれた子供たちが学齢に達する頃には、116人から166人に増加しています。同様に、新築住宅の建設件数も震災前後で1.6倍に増加しています。新築を建てる世代のほとんどが「子育て世代」ですので、御船町における人口増加の主な要因は、子育て世代の転入であるといえます。

「御船」は安くて便利なまち！？

町は人口増について「コストコや企業誘致などの影響でイメージが向上した」等と議会で答弁していますが、実際はそれを含め「安くて便利！」が一番の理由であると考えられます。

御船町が初めてトップ10に入った「ねとらぼ」や「いい部屋ネット」の住みこちランキングでは、「物価・家賃」部門で1位になっています。

独自に転入者や不動産業者にお話を伺ったところ、熊本市への通勤や買い物の利便性とともに、特に新築の費用や家賃が比較的安いことが大きな魅力として挙げられました。

御船町の人口増加傾向を維持するためにも

町は、多様な住民からのフィードバックや調査結果を通じて、住民ニーズを理解し、町の魅力をさらに高めるための施策を模索しなければなりません。

特に、転入してこられた方々に「住み続けたい！住んでよかった！」などと実感していただくためには、充実した子育て支援施策や教育、芸術・文化、景観などが重要な要素となるのではないのでしょうか。

単に、道が大きくなった、お店が増えた、人口が増えたなどと喜ぶだけで、そこに「まちづくりの理念」が欠けていたなら、町の持続的発展の可能性も失われます。

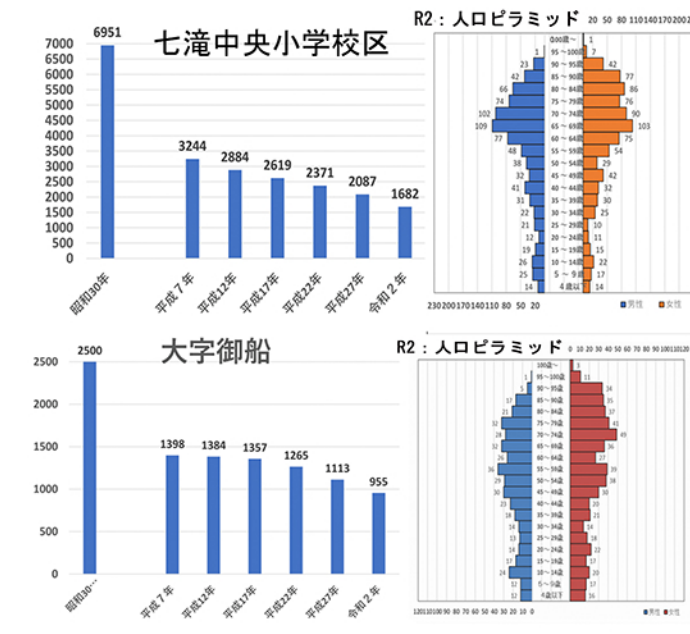
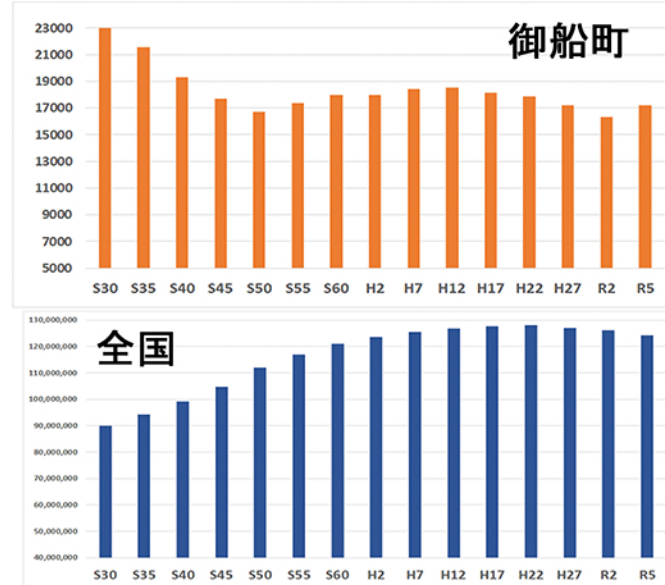
今こそ町民皆様と共に、開発や景観を含むまちづくりの理念について共有を図るべき時期だと考えます。

熊本県が発行している「市町村合併史」の中で御船を紹介する一文に次のようなものがあります。

…加藤、細川の時代には、豪商の町「御船」の名は関西まで知られ県内第一の町として栄えた。その後、明治を経て大正になり、文明開化とともに交通が発達するに従い、御船の名は影を薄めたが、昭和30年の合併に際しても町名は「御船町」を残した…

ちょっと大げさに聞こえるかもしれませんが、昭和30年時点でも御船町の人口は23,000人を超えていました。

当時の日本の人口は、今より約3,500万人少ない約9,000万人でしたので町としては相当大きく、県内でもトップクラスの人口を誇っていました。



可能性にあふれる御船町！

世界に、日本に、そして御船町に…将来どのような変化が生じるかを予想することは極めて困難です。しかし、歴史的にも高いポテンシャルを持ち、比較的都市的な生活ができる平坦部と、交通の便に恵まれながらも美しい日本の原風景が広がる中山間部をあわせもつ御船町は、あらゆる可能性にあふれ将来においてもさまざまな展開が考えられます。

予算資料を見てもみませんか？

令和6年3月の議会で、令和6年度予算が成立しました。皆様の生活に密着することが決まっている予算です。なれないと大変わかりづらい資料ではありますが、議会のホームページで公開していますので一度ご覧になってみませんか？

令和6年度
当初予算案
(PDF)



御船は県内第一の町だった！



人口減少は仕方がない？

御船町は過去に人口が多かった時期があり、現在も人口が増えているものの、少子高齢化などの影響で将来的な人口減少は避けられない…と感じる方々も多いでしょう。

しかし、昭和30年から現在までの御船町と全国の人口推移グラフをご覧ください。

昭和30年の御船町は子どもが多く、高齢者は少なく、また、日本全体の人口も右肩上がりの増加傾向でした。しかし、実際には人口が激減しています。

その理由は、当時の「高度経済成長」という社会変化による、地方から都会への人口大流出です。

このように、地域における人口の推移は、日本全体の人口減少や少子高齢化だけが原因ではなく、社会変化や人口の移動が大きく影響します。

御船町の課題は？

御船町の人口は今、回復傾向にあります。中山間部では深刻な人口減少の課題が残っています。

七滝中央小学校校区(旧七滝村)においても、昭和30年に比べ人口が4分の1以下にまで減少し、現在も減少が続いています。

このように、中山間部の人口減少が御船町全体の人口減少の主な原因となっています。

一方、平坦部は人口の大部分が集中し、全体的には人口減少と無縁の地区が多いのですが、御船町中心部である「大字御船地区」においては、特に人口減少と高齢化が進行しています。

この地域では、昭和30年に比べて人口が半減以下になり、少子高齢化が進み、大都市で見られるような「ドーナツ化現象」と同様の状況が見られます。